

泉佐野市**民間建築物**デザインガイドライン

広がる緑の大地からのびる群青の空へのメッセージ

泉佐野市

はじめに

本市は、豊かな自然と歴史的資源に恵まれ、泉南地域の中核都市として発展してきましたが、近年、泉州空港（関西国際空港）の開港を契機に、まちの表情が大きく変わりつつあります。

このため、本市では、自然や歴史・文化をまもりながら、世界に開かれた玄関都市にふさわしい魅力ある都市景観の実現を図ることを目的とした「泉佐野市都市景観条例」を制定しました。その中で、都市景観に大きな影響を及ぼす建築物や工作物、広告物等の建築や設置などに際し、あらかじめ届け出させていただくことになっています。また、その配置、意匠その他都市景観の形成上配慮すべき誘導基準を定めました。

本ガイドラインは、誘導基準をより詳しく把握できるように、デザインの考え方や技法の具体的な事例をまとめたものであり、実際の計画や設計、あるいは届出に際しての参考書として活用されることを意図して作成したものです。

事業者の皆さんの創意や工夫がさらに積み重ねられ、魅力ある都市景観が創造されることを期待するものであります。



泉佐野市民間建築物デザインガイドライン目次

泉佐野市の景観形成の考え方	1
大規模建築物等届出制度のあらまし	3
基本的デザイン指針	5
都市景観の形成に関わる誘導基準とデザインの配慮点	11
1 敷地	
1-a 空地の配置・意匠	13
1-b 敷ぎわの形態・意匠	14
1-c 屋外付帯施設	15
2 建築物	
2-a 建築物の形態・意匠	17
2-b 低層部の形態・意匠	19
2-c バルコニー・屋外階段の意匠	20
2-d 外壁の材料・色彩	21
3 付帯設備等	
3-a 屋上付帯設備	23
3-b 外壁付帯設備	24
4 緑化	25
5 広告物	27
6 工作物	29



泉佐野市の景観形成の考え方

1. 景観形成の基本目標

泉佐野市は、豊かな自然環境と数多くの歴史的資源に恵まれた都市であり、又、泉州空港（関西国際空港）の開港にともない、国際交流拠点として世界に開かれた玄関都市としての役割もあわせもっています。地形的には、都市機能が集中する臨海部から、市街地に広がる平野部、豊かな自然環境の中に居住地が点在する平野部・丘陵部、自然環境に恵まれた

山間部と変化に富んだ要素があります。

泉佐野らしい魅力ある景観をつくり出すためには、今ある豊かな自然環境と歴史的資源などの優れた要素をまもり育てながら、新しい泉佐野らしさを創り出すことが求められます。この「新しい泉佐野らしさの創造」に向けて、泉佐野市の景観形成の基本目標を次のように定めています。

目標1 世界に通じる感性豊かな都市づくり



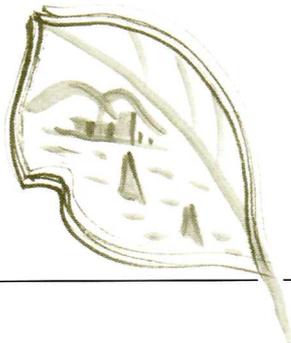
これから私たちのまちがめざす方向である国際交流拠点にふさわしく、質の高い、新しい景観を創り出すことによって、都市の魅力を高めるとともに、市民の誇りや愛着を高めます。

目標2 泉佐野らしい個性を発揮する都市づくり



私たちの都市が長い歴史を通じてつちかってきた伝統ある歴史・文化的資源を、新しい都市の個性につなげるかたちで生かすことによって、泉佐野らしさを大切にしつつ、市民のわがまち意識を育みます。

目標3 自然と共に生きる、うるおいのある都市づくり



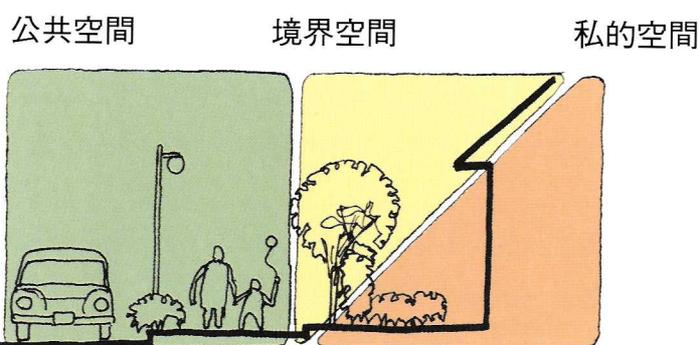
山から海に変化に富みつつ広がる自然をまもり、生かすことを通じ、都市の発展と自然が共存し、うるおいがあり、市民にとってやすらぎ、いこいがある都市をつくります。

2. 景観形成の主体

「新しい泉佐野らしさの創造」に向けての基本目標を実現し、魅力ある都市景観を創り出すためには、市民・事業者・行政が協働してそれぞれの役割を果たしながらまちづくりにとりくむことが必要となります。そのために、泉佐野市では「泉佐野市都市景観条例」を制定し、泉佐野らしい魅力ある都市景観を整備し誘導するしくみをつくっています。

都市の空間は、公共施設（道路、公園、河川、公

共建築物など）や民間の建築物、自然環境などによって構成されており、その所有関係によって「公共空間」と「私的空間」に分けられます。私的空間の中でも、道路などから見える塀や生垣、建築物の屋根や外壁などの境界空間は極めて公共性が高く、都市の景観形成において非常に重要な役割を担っているといます。



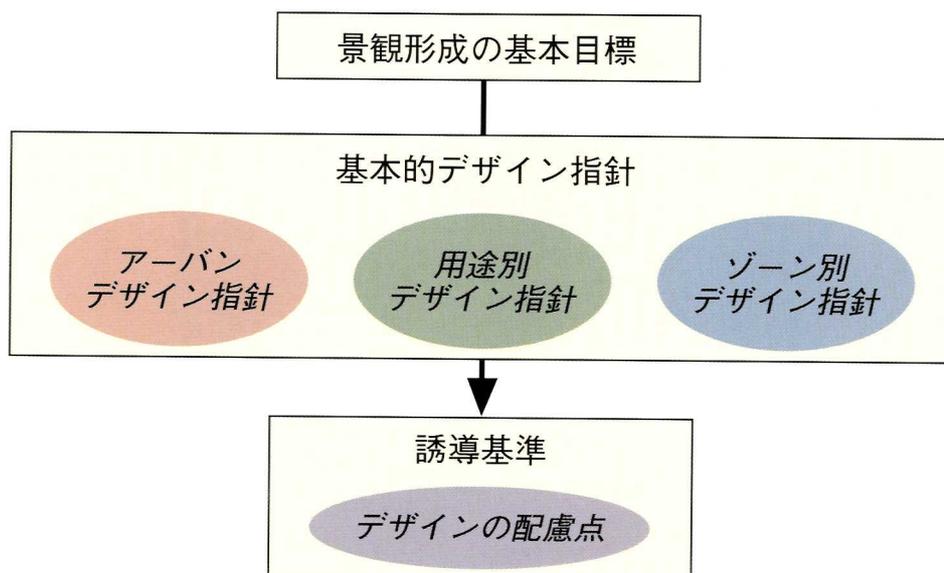
3. ガイドラインの構成

景観形成に係る考え方や基本的な方向性を具体的にかたちにしていくためには、都市景観マスタープランの内容に則して景観要素ごとのデザインをより詳細に考えていく必要があります。

本ガイドラインは、建築物等のデザインに関して

建築物をまちの一部としてとらえ、その用途や場所に応じたデザインの検討をおこなっていくための3つの「基本的デザイン指針」と、景観形成上配慮すべき「誘導基準」「デザインの配慮点」及び、それを具体的に解説した事例集とで構成しています。

●ガイドラインの構成



大規模建築物等届出制度のあらまし

1. 届出の目的

大規模建築物等は、都市の景観に大きな影響を与えると考えられます。泉佐野市では、よりよい都市景観をつくり、調和のとれた魅力的なまちなみを形成するために、これらに対して誘導基準を定め、届出制度を設けています。

このため、泉佐野市内での大規模建築物等の建設行為にあたっては、誘導基準に沿ったデザインの創意工夫をしていただき、市長に届出をしていただくものです。

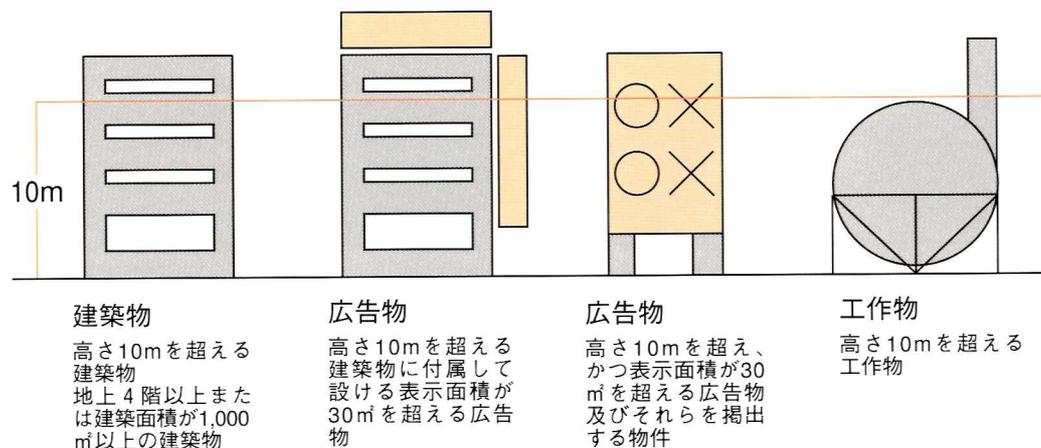
2. 届出の対象

■対象となる行為（泉佐野市都市景観条例第14条より）

- ① 建築物の新築、増築、改築、移転もしくは大規模の修繕もしくは模様替または外観の色彩の変更
- ② 広告物の表示もしくは変更または広告物を掲出する物件の設置、改造、移設もしくは色彩の変更
- ③ 工作物の新設、増設、改造、移設または外観の色彩の変更
- ④ その他都市景観に影響を及ぼすおそれのある行為

■対象となる建築物等（泉佐野市都市景観条例施行規則第5条より）

- ① 建築物で、高さが10mを超え、もしくは地上からの階数が4以上または建築面積が1,000㎡以上のもの
- ② 高さが10mを超える建築物に付属して設けられる広告物で、表示面積が30㎡を超えるもの
- ③ 広告物及びこれらを掲出する物件で、高さが10mを超え、かつ、表示面積が30㎡を超えるもの
- ④ 工作物で、高さが10mを超えるもの



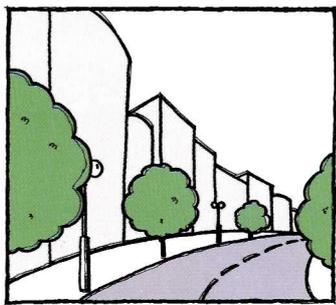
基本的デザイン指針

建築物などの形態・意匠は、その用途・規模によって、また建設敷地や周辺環境によって千差万別です。これらを魅力的なまちなみの景観形成に導いて

いくために、泉佐野市では、アーバンデザイン指針・用途別デザイン指針・ゾーン別デザイン指針の3つの基本的デザイン指針を定めています。

アーバンデザイン指針

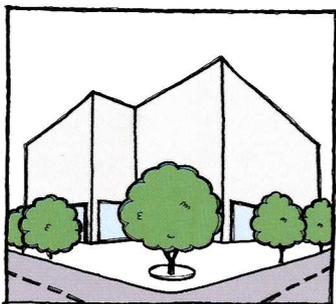
魅力的なまちなみをつくる



泉佐野市は、旧街道沿いやその周辺での歴史的まちなみ、内陸平野部から丘陵部にかけての成熟した計画的住宅地や旧集落のまちなみ、りんくうタウンなど臨海地域での新しく形成されつつあるまちなみなどが特徴的です。

そこで、うるおいある魅力的なまちなみをつくるために、まちなみのスケール感や特性に配慮して、すでに一定のまちなみが形成されているところではそのイメージアップに努め、それ以外のところでは、建築物の配置・まとまり・スカイライン・ファサードの意匠・色彩・緑化などに工夫をすることが基本となります。

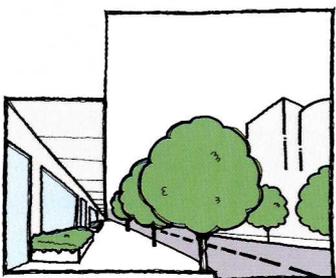
まちかどの表情をつくる



まちなみのアイストップとなるまちかどは、まちのイメージをつくる上で重要な場所となります。まちなみにうるおいや表情を与え、魅力ある景観にするために、まちかどの建築物は形態・意匠・配置などの工夫が必要です。

特に幹線道路の交差点にあるまちかどは、にぎわいとコミュニティを生むまちかど広場の確保や緑化、ランドマークの形成など、表情をつくるのが大切です。

快適な通りをつくる

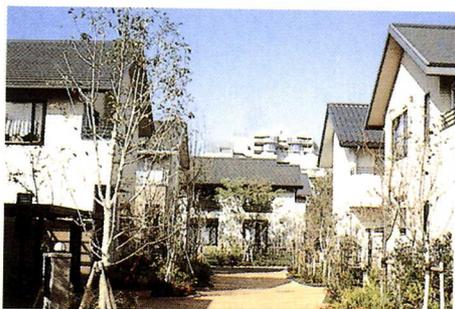


ヒューマンスケールに配慮した魅力的な通り景観と、快適な歩行者空間をつくり出すために、建築物の通りに面する部分は、壁面後退でゆとりを生み出し、地域の特性に配慮して、低層部の意匠や利用形態の工夫をし、連続性のある空間をつくるのが大切です。また、うるおいある緑の演出や、バリアフリーに配慮した安全な歩行者空間など、誰にとっても快適な通りをつくる工夫をすることを基本とします。

用途別デザイン指針

住宅系建築物

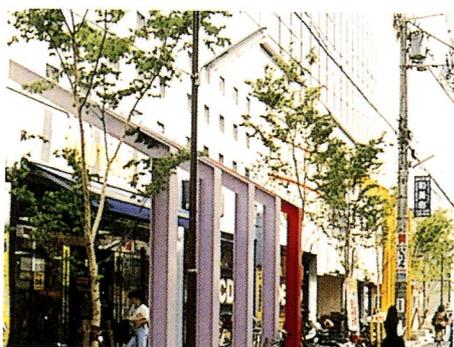
住宅街として個々の住宅が、まち全体として調和し、魅力ある落ちついたまちなみを形成していくことが目標となります。この目標を達成するためには、次のようなことに配慮する必要があります。



- 公共性に配慮して、バルコニーなどのデザインを工夫する。
- まちなみの連続性に配慮して、住宅のファサード・色彩や敷ぎわの緑を工夫する。
- 人々のコミュニティーを一層育めるようにうるおいとゆとりのある空地の配置や敷ぎわのデザインを工夫する。

商業・業務系建築物

商業・業務系建築物は、駅前や幹線道路沿道などに立地する 경우가多く、都市の顔となるまちなみをつくる役割を担っています。まちなみを、賑わいの中にも格調ある都市の顔とするためには、次のようなことに配慮する必要があります。



- 個々の建築物は、企業の顔としてだけでなく都市の顔となることに留意し、立地する都市空間にふさわしい表情を創り出す工夫をする。
- 広告・看板などが煩雑にならない工夫をする。
- 1階部分の壁面後退や入口部分の空間にゆとりを持たせるなど、開放的な歩行者空間をつくり、建物の内外が見通せる工夫をする。
- うるおいと賑わいのある敷ぎわ空間の演出で、活気あるまちなみとなる工夫をする。

工業系建築物

工場・倉庫等の建築物は、生産・保管の場であり、機能的が重視されるため、周辺環境に対する配慮が不十分な建築物となりがちです。これらが創り出すまちなみを快適なものにするためには、次のようなことに配慮する必要があります。

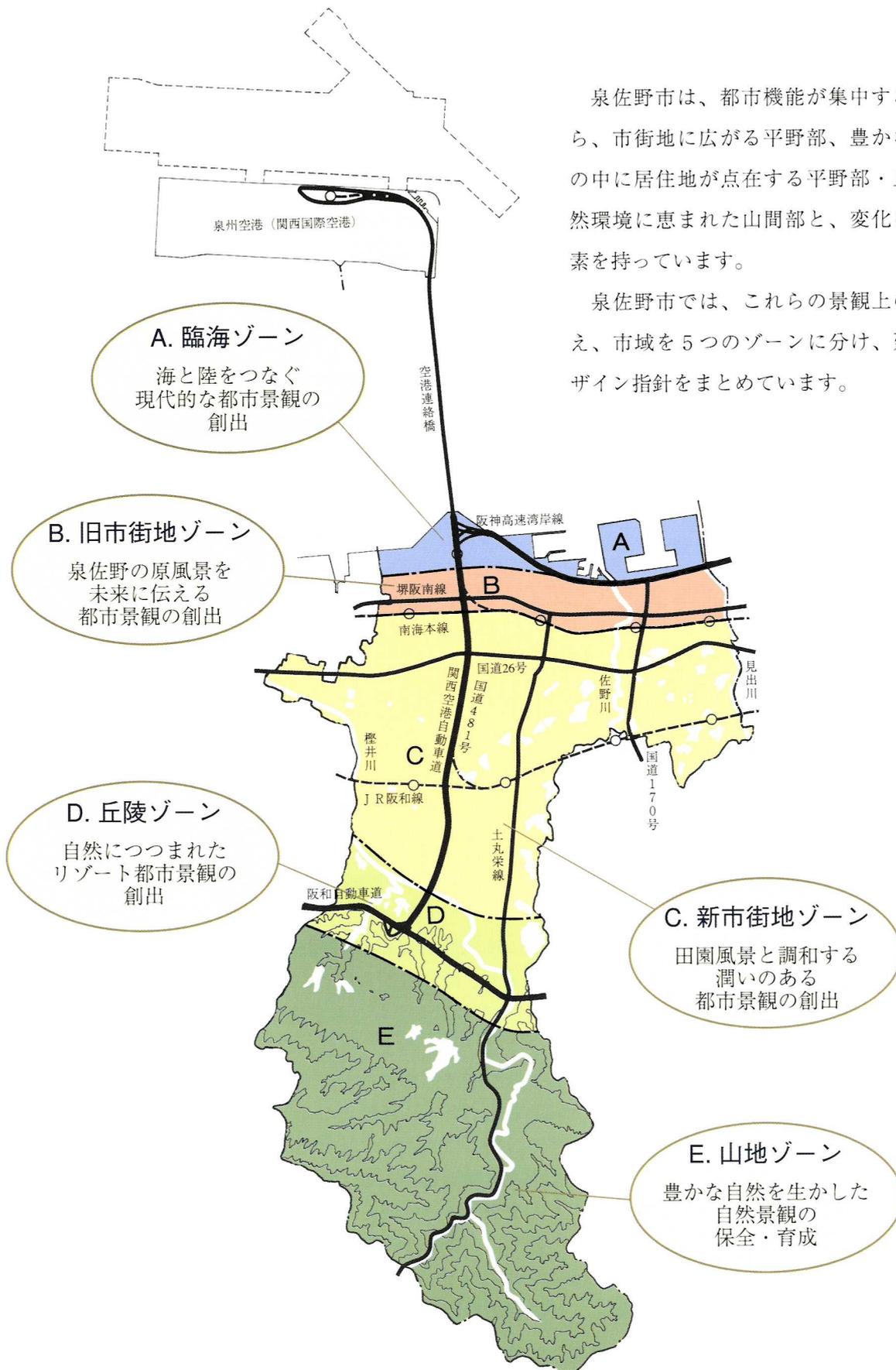


- 長大な壁面や塀などは、デザインや色彩の配慮でリズムのあるものとし、殺伐としたイメージにならない工夫をする。
- 広大な敷地を生かして、敷ぎわにオープンスペースをとり、見通しのきく明るく豊かな植栽で圧迫感を軽減するとともに、まちなみにうるおいを創り出す工夫をする。
- 住宅と混在する工場は、建物デザインや緑化などで周囲の住宅地景観との調和を図る。

ゾーン別デザイン指針

泉佐野市は、都市機能が集中する臨海部から、市街地に広がる平野部、豊かな自然環境の中に居住地が点在する平野部・丘陵部、自然環境に恵まれた山間部と、変化に富んだ要素を持っています。

泉佐野市では、これらの景観上の特性を考え、市域を5つのゾーンに分け、建築物のデザイン指針をまとめています。



A. 臨海ゾーン



臨海ゾーンは、りんくうタウンを中心に新しいまちづくりが進められているゾーンであり、阪神高速湾岸線などの高架道路、泉佐野漁港、コンビナートなどの景観が見られます。街区、敷地、建築物とも比較的大規模なものが多いため、広々と見通しがあり開放的な反面、まちなみが親しみやすさに欠けるようなイメージになりがちです。

「海と陸をつなぐ現代的な都市景観の創出」のために、次のようなことに配慮する必要があります。

- ふんだんな緑を確保し、潤いあるまちなみをつくる。
- 敷地や建築物が通りに対して単調・閉鎖的にならない工夫をする。
- まちかどでは、ランドマーク性のある演出で表情をつくる。



B. 旧市街地ゾーン



旧市街地は、密集した住宅地が広がり都市的居住の伝統を伝えているゾーンで、旧街道沿いを中心に寺社や蔵、旧跡、まとまった歴史的まちなみなどが残されています。建物の老朽化・建替えが進んでいますが、歩行者に親しみやすいスケール感があります。

「泉佐野の原風景を未来に伝える都市景観の創出」のために、次のようなことに配慮する必要があります。

- 歴史的まちなみに調和する素材・色彩・デザインなどの工夫をする。
- 緑化は、わずかな空間を生かし、歴史的イメージに合う樹種を選ぶ。
- 建築物の形態や敷ぎわの工夫でコミュニティを生む憩いのスペースをつくる。
- 水路を生かす敷ぎわをつくる。



C. 新市街地ゾーン



▲駅前・中心市街地



▲旧集落



▲計画的住宅地



▲幹線道路沿道



▲田園

新市街地ゾーンは、泉佐野駅前・中心市街地、旧集落、計画的住宅地、幹線道路沿道、田園など、様々な特徴のある景観が見られるゾーンです。それぞれの地区でその特徴を生かし、魅力的なまちなみをつくることが大切です。

「田園風景と調和する潤いのある都市景観の創出」のために、次のようなことに配慮する必要があります。

駅前・中心市街地

- 建築物は、まちの玄関口としてシンボル性、統一性のある格調高い表情を工夫する。
- 1階部分の壁面後退やまちかど広場の確保で、潤いとゆとりのある快適な歩行者空間、憩いの空間をつくる。

旧集落

- 歴史的まちなみに調和する素材・色彩・デザイン等の工夫をする。
- 田園風景と調和する緑化の工夫をする。

計画的住宅地

- 周辺のまちなみと調和のとれた素材・色彩・デザイン等の工夫をする。
- 育まれた緑のボリュームを生かした敷ぎわの工夫をする。

幹線道路沿道

- まちかどには、まちかど広場やランドマークの形成など表情をつくる工夫をする。
- 壁面後退でゆとりをつくり、連続性のある緑地帯で潤いをつくる。

田園

- 周辺環境に調和した素材・色彩・デザイン等を工夫する。
- 敷地の周囲をボリュームある緑で囲い、様々な方向からの視線に配慮する。

D. 丘陵ゾーン



丘陵ゾーンは、豊かな自然の緑や溪谷・河川・ため池などの水の風景、歴史的資源にも恵まれ、山並みを背景としたのどかで緑豊かな里の風景が広がる一方、阪和自動車道・関西空港自動車道・インターチェンジの影響で景観に大きな変化が見られるゾーンです。山地ゾーンと新市街地ゾーンの間に位置することから、自然と都市をつなぐ役割を担っています。

「自然につつまれたりリゾート都市景観の創出」のために、次のようなことに配慮する必要があります。

- 周辺の自然に調和した素材・色彩を工夫する。
- 山並みに調和した建築物のスカイラインをつくる。
- 周辺の緑と一体感のある敷ぎわの緑を演出する。



E. 山地ゾーン

山地ゾーンは、犬鳴山を代表とする豊かな自然環境がひろがり、河川、滝などの景観資源や歴史的資源にも恵まれているゾーンです。山間には山里の風景があり、茅葺きや瓦屋根の民家が自然と一体となった景観をつくっています。

「豊かな自然を生かした自然景観の保全・育成」のために、次のようなことに配慮する必要があります。

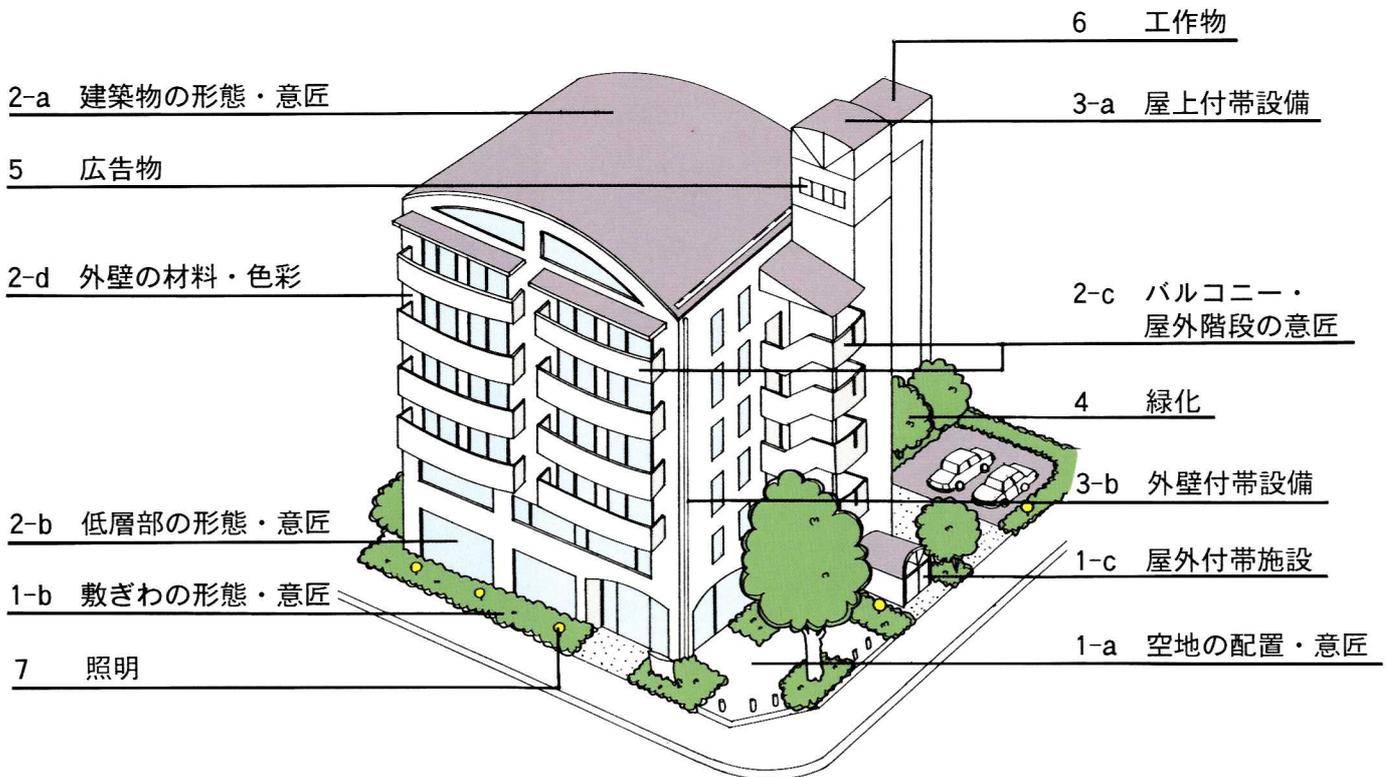


- 周辺の自然に調和した素材・色彩を工夫する。
- 既存の樹木を生かすような建築物の形態を工夫する。
- 周囲の緑と一体化したオープンな敷ぎわをつくる。

都市景観の形成に関わる誘導基準とデザインの配慮点

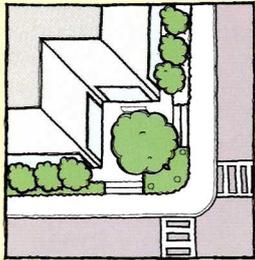
建築物などの形態・意匠が景観に与える影響は非常に大きいものです。魅力的なまちなみの景観形成を導いていくために、ここでは、建築物などの計画・デザインにあたって留意すべき事項を「誘導基準」と「デザインの配慮点」の2段階にまとめています。

「誘導基準」では、建築物などにおける景観を構成する様々な要素に対して取り組むべき方向性をまとめ、「デザインの配慮点」ではその基準を具体化するための配慮点を、事例写真を使いながら解説しています。



	対 象	誘 導 基 準	デザインの配慮点
1 敷 地	a 空地の配置 ・意匠	まちなみにゆとりとuringおいを創出する工夫をする。	<ul style="list-style-type: none"> ● 建築物の壁面後退で、ゆとりとuringおいをつくる。 ● ポケットパークを設け、ゆとりと変化をつくる。 ● 特徴あるまちかど広場を配置する。
	b 敷ぎわの形態 ・意匠	地域の特性をふまえ、敷地や建築物の見え方に配慮する。	<ul style="list-style-type: none"> ● うるおいある緑の敷ぎわをつくる。 ● さく・塀の意匠を工夫する。 ● 擁壁の意匠を工夫し、圧迫感を軽減する。
	c 屋外付帯施設	屋外付帯施設は、周辺環境を阻害せず、建築物や周辺のまちなみとの調和に配慮する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 玄関アプローチを演出する。 ● 駐車車両を目立たなくする。 ● 駐車場の意匠を工夫する。 ● 自転車置場に配慮する。 ● ごみ置場に配慮する。 ● 受水槽などに配慮する。
2 建 築 物	a 建築物の形態 ・意匠	地域の特性をふまえ、周辺のまちなみとの調和や対比に配慮する。 全体として、まとまりや表情を持つ工夫をする。	<ul style="list-style-type: none"> ● 通りに対するスケール感に配慮する。 ● スカイラインに配慮する。 ● 表情豊かな外観をつくる。 ● まとまりに配慮する。 ● まちかどを印象づける。 ● 地形の特徴を生かす。
	b 低層部の形態 ・意匠	周辺のまちなみとの連続感を出す工夫をする。 道路に面する外壁の後退により、快適でゆとりある空間を創出する工夫をする。	<ul style="list-style-type: none"> ● 低層部の意匠を工夫する。 ● 夜間・休日の表情を工夫する。 ● 低層部の壁面を後退させる。
	c バルコニー・ 屋外階段の意匠	バルコニーは、繁雑に見えない工夫をし、まちなみに配慮する。 屋外階段は、建築物との調和に配慮する。	<ul style="list-style-type: none"> ● バルコニーは繁雑に見えない工夫をする。 ● バルコニーの意匠を工夫する。 ● 屋外階段の配置・意匠を工夫する。
	d 外壁の材料 ・色彩	地域の特性をふまえ、周辺のまちなみとの調和や対比に配慮する。 時間の経過によって劣化しない材料を用いるよう努める。	<ul style="list-style-type: none"> ● 周辺と調和した材料・色彩を使う。 ● 単調にならない材料・色彩を工夫する。 ● 維持・管理に留意する。
3 付 帯 設 備 等	a 屋上付帯設備	目立たないように配置・意匠を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 建築物と一体的となるデザインを施す。 ● アクセントとなるデザインの囲いで隠す。 ● 設置場所を工夫する。
	b 外壁付帯設備	建築物との調和に配慮し、配置・意匠を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 建築物と一体的となるデザインを施す。 ● アクセントとなるデザインを施す。 ● 設置場所を工夫する。
4 緑 化	緑化	周辺の緑と連続性を持たせ、地域の特性に応じた緑の演出を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 周辺の緑に配慮する。 ● 印象的な植栽を工夫する。 ● 維持・管理に留意する。
5 広 告 物	広告物	建築物や周辺のまちなみとの調和に配慮し、最小限の表示内容とするとともに、配置・意匠を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 建築物と一体的となるデザインを施す。 ● 設置場所や意匠を統一する。 ● 大きさや色数等を抑えめにする。
6 工 作 物	工作物	周辺のまちなみとの調和に配慮する。 全体として、良質な意匠となるよう努める。	<ul style="list-style-type: none"> ● 意匠を工夫し、圧迫感を軽減する。 ● ランドマークとなるデザインを施す。
7 照 明	照明	周辺環境に配慮し、地域特性に応じた光の演出を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 外観の表情を引き立てる。 ● 敷ぎわの照明を工夫する。

1- a 空地の配置・意匠



まちなみにゆとりとうるおいを…
コミュニティを生む空地づくり

まちなみにゆとりとうるおい
を創出する工夫をする。

1. 建築物の壁面後退で、
ゆとりとうるおいを
つくる



壁面後退部を開放し歩行者空間にゆとりをもたらす。

2. ポケットパークを設け、
ゆとりと変化をつくる



建築物の形態の工夫で、たまり場をつくり、ゆとりとうるおいを生みだす。

3. 特徴あるまちかど広場を
配置する



特徴ある水辺の演出で、開放的なコミュニティ空間をつくる。



壁面後退部の植栽で、通りにうるおいをつくる。



モニュメントやベンチを緑で囲い、うるおいある憩いの場をつくる。



広場の舗装は歩道との段差をなくし、特徴あるモニュメントを設置してまちなみのランドマークをつくる。



隣地との空地を連続させることで、まとまった緑地帯とし、ゆとりとうるおいをつくる。

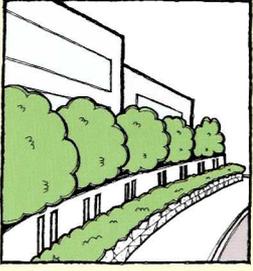


広場の舗装はデザインに配慮して歩道との段差をなくし、広がりがある誰もが利用しやすいものにする。



特徴あるシンボルツリーでまちかどを印象づけ、うるおいある憩いの場をつくる。

1-b 敷ぎわの形態・意匠



周辺環境をイメージアップする
うるおいのある敷ぎわづくり

地域の特性をふまえ、敷地や
建築物の見え方に配慮する。

1. うるおいある緑の
敷ぎわをつくる

狭いスペースでも植栽を施し、通りにうるおいを
もたらす。

2. さく・塀の意匠を
工夫する

フェンスの内外に緑を配し、フェンスを意識させ
ない連続感のある敷ぎわをつくる。

3. 擁壁の意匠を工夫し、
圧迫感を軽減する

表情のある石積み擁壁を後退させ、前に低木を配
し圧迫感を軽減する。



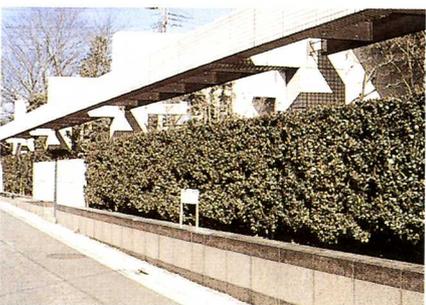
歩道側から低木・高木の順に植栽し、リズムのある
敷ぎわを演出する。



建築物や周辺のまちなみに調和したデザインにす
る。



擁壁にラインをいれ、視覚的に分節化することで
リズムを出す。



高い生垣でプライバシーを守りながら通りにうる
おいを与える。

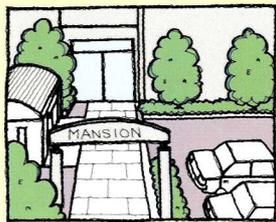


長く続く塀は、ラインや植栽でリズムと軽快さ
を出す。



擁壁の上下を緑化し、擁壁にツタをはわせる。

1-c 屋外付帯施設



周辺環境に調和した
デザインを

屋外付帯施設は、周辺環境を
阻害せず、建築物や周辺のま
ちなみとの調和に配慮する。

1. 玄関アプローチを
演出する

建築物に入り隅をつくってエントランス広場を設
け、うるおいある緑でアプローチを演出する。

2. 駐車車両を
目立たなくする

高木を植栽して緑陰駐車場とし、車を道路から隠
すと共にまちなみにうるおいを与える。

3. 駐車場の意匠を
工夫する

緑化ブロックで、視覚的な緑のオープンスペース
をつくる。



造形的なゲートを設け、まちなみにアクセントを
つける。



駐車場を半地下にすることで周辺から目立たなく
する。



駐車していない時、視覚的に広場となる舗装にす
る。



玄関アプローチ周辺の色調・材質を建築物と合わ
せ一体感を出す。



2段式駐車場の周囲をボリュームのある植栽で囲
い、駐車場を目立たなくする。



立体駐車場の壁面をデザインし、すっきりとした
外観をつくる。

維持・管理について

屋外付帯施設は車や自転車の出し入れ、ごみの回収など人の出入りが頻繁であることが多く、乱雑になったり、汚れたままになりがちです。これでは、せっかく景観に配慮したデザインをしても、逆に景観を乱す要因になってしまいます。まち全体の景観を美しく保つためには、あまり目立たないところでも適切な維持・管理を行うことが必要です。

4. 自転車置場に配慮する



造形的なデザインでまちなみにアクセントを与える。

5. ごみ置場に配慮する



ごみ置場壁面を外構デザインと統一する。

6. 受水槽などに配慮する



建築物と一体的にデザインした壁でおおう。



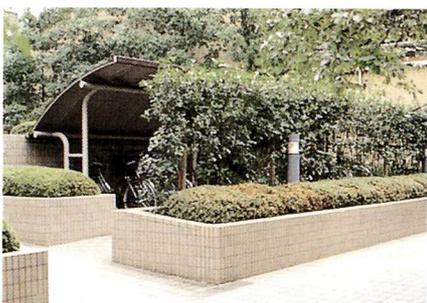
建築物と一体的にデザインし、すっきりとまとめる。



緑を配し目立たなくする。



受水槽を建築物やまちなみに配慮したデザインにする。



緑でおおい、まちにうるおいを与える。

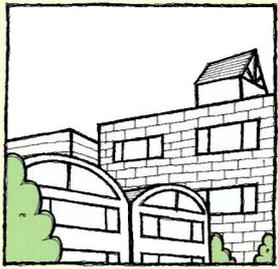


ごみ置場をデザインし、アクセントとする。



自動販売機を置く場合は、色やデザインを建築物や周囲のまちなみに合わせたものとする。

2-a 建築物の形態・意匠



まちなみに配慮した
豊かな表情を工夫する

地域の特性をふまえ、周辺の
まちなみとの調和や対比に配
慮する。
全体として、まとまりや表情
を持つ工夫をする。

1. 通りに対する スケール感に配慮する



建築物を壁面後退させ、通りに対する圧迫感を軽減する。

2. スカイラインに配慮する



周辺の建築物に高さを合わせ、まちなみのスカイラインを演出する。

3. 表情豊かな外観をつくる



壁面の形や窓に変化をもたせ、豊かな表情をつくる。



建築物を周辺のまちなみに段階的になじませる。



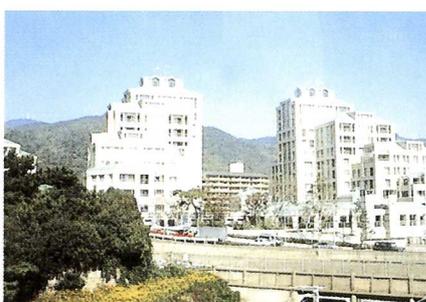
ヴォールト屋根の連続で、リズムカルで変化のあるスカイラインをつくる。



色彩の対比でリズムのある楽しい表情をつくる。



大きな建築物を分割してボリュームを落とし、まちなみになじませる。



背景の山なみを意識したスカイラインをつくる。



建築物の素材の変化を同色調でまとめ、まとまった表情をつくる。

景観協定

まちなみ全体として調和のとれた都市景観を形成するため、住民がお互いの合意により、例えば、緑化や看板類の統一、建築物の色彩について約束ごとを定め実施していきます。市では、このような自主的な協定を「景観協定」と認定し、支援します。

景観形成市民団体

地域の景観を守り、育てる、あるいは新しく創造していくなど都市の景観形成を図るための調査や研究、広報などの継続した活動を目的とした団体を「景観形成市民団体」として認定し、支援します。

4. まとまりに配慮する



大小の建築群を組み合わせ、まとまりをつくる。

5. まちかどを印象づける



形態・色彩に変化をつけてまちかどを印象づける。

6. 地形の特徴を生かす



斜面を生かした建築物の配置・形態を工夫する。



高さの構成に配慮し、リズムカルなバランスのとれた景観にする。



ガラスカーテンウォールでまちかどを印象づける。



地形の起伏になじませ、周囲との自然なつながりを演出する。



建築物を分節化し、風景を遮蔽する壁とならない配慮をする。



まちかどに集会所を配置・デザインし、特徴づける。



水辺を生かしたデザインを工夫する。

2- b 低層部の形態・意匠



通りの景観に
ゆとりと賑わいを創る

周辺のまちなみとの連続感を出す工夫をする。
道路に面する外壁の後退により、快適でゆとりある空間を創出する工夫をする。

1. 低層部の意匠を工夫する



ショーウィンドウをデザインし、明るく楽しい通りにする。

2. 夜間・休日の表情を工夫する



パイプ状のシャッターで閉鎖感をなくし、通りに賑わいと明るさを提供する。

3. 低層部の壁面を後退させる



1階壁面を後退させ、通りにゆとりをもたらす。



高層部に対して低層部の素材を変え、通りに対してやさしい印象を与える。



閉店後もウィンドウショッピングを楽しめる様にショーウィンドウをライティングする。



角地の建築物のコーナー壁面を後退させて、まちかどに見通しとゆとりをつくる。



色彩の対比で、印象深い表情をつくる。

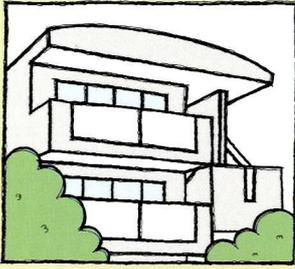


外構植栽の中に照明を設けて夜間の雰囲気演出すると共に、通りに明るさを提供する。



壁面の一部を後退させ人のたまり場をつくり、通りにゆとりと賑わいをつくる。

2-c バルコニー・屋外階段の意匠



建築物に調和した
豊かな表情づくり

バルコニーは、繁雑に見えない工夫をし、まちなみに配慮する。
屋外階段は、建築物との調和に配慮する。

1. バルコニーは繁雑に見えない工夫をする



透光性のある素材で軽快にし、洗濯物等を見えにくくする。

2. バルコニーの意匠を工夫する



バルコニーの形態・色彩で表情を出し、建築物のアクセントとする。

3. 屋外階段の配置・意匠を工夫する



建築物の形態・意匠の一部としてデザインし、全体の外観にあわせて仕上げる。



パンチングメタルで明るさ、通風を確保するとともに、ペランダのものを見えにくくする。



バルコニーをはり出さず、フラットな壁面をつくり、すっきりとしたイメージにする。



建築物本体と異なる素材で変化を出し、建築物に表情を与える。



中が見えないようにタイル張りとし、デザインの工夫で壁面の単調さを緩和する。

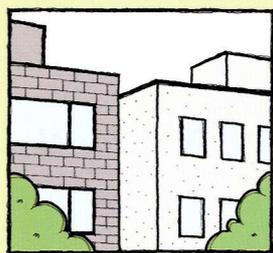


植栽スペースのあるバルコニーで、建築物にうるおいと表情を与える。



屋外階段の踊り場壁面に彩色し、建築物のアクセントとする。

2-d 外壁の材料・色彩



まちなみに調和とリズムを創る

地域の特性をふまえ、周辺のまちなみとの調和や対比に配慮する。
時間の経過によって劣化しない材料を用いるよう努める。

1. 周辺と調和した材料・色彩を使う



地区でベースカラーを合わせ、まとまりのあるイメージをつくる。

2. 単調にならない材料・色彩を工夫する



壁面にボーダーラインを入れて分節化し、軽快に見せる工夫をする。

3. 維持・管理に留意する



時間と共に熟成する自然石を用いる。



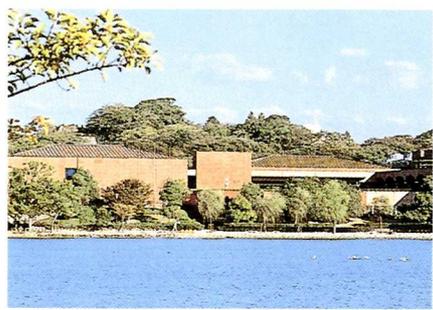
既存の周辺の素材に合わせ、通り景観の連続性を演出する。



質の異なる材料を対比させ、変化をつける。



アルミパネル等、耐久性のある材料を用いる。



自然環境に調和するアースカラーを用いる。



大壁面の建築物の壁面の一部を彩色し、アクセントとする。



磁器質タイル等、耐久性のある材料を用いる。

みに調和と
ムを創る

地域の特性をふまえ、周辺のまちなみとの調和や対比に配慮する。
時間の経過によって劣化しない材料を用いるよう努める。

にならない
彩を工夫する

3. 維持・管理に留意する



を入れて分節化し、軽快に



時間と共に熟成する自然石を用いる。



させ、変化をつける。



アルミパネル等、耐久性のある材料を用いる。



の一部を彩色し、アクセ



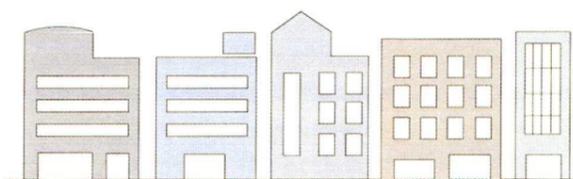
磁器質タイル等、耐久性のある材料を用いる。

まちの色彩基礎知識

まちの色彩の調和

色彩は、景観を考える上で非常に重要な要素であり、いろいろな色が無秩序に存在する状態は雑然として美しくありません。また逆に、地域を一色に統一してしまうと、単調で退屈な印象を与えるものになってしまう。

魅力ある色彩景観とするためには、「統一性と適度な変化」があり、類似調和を基本として全体としての秩序が保たれていることが大切です。



建築物の色彩構成

建築物などの外観に複数の色を使用する場合には、色彩をベースカラー・アソートカラー・アクセントカラーの3つに分けて配色や割合を考え、より美しく魅力的な景観をつくるために慎重な色彩構成の検討をすることが必要となります。

【ベースカラー】

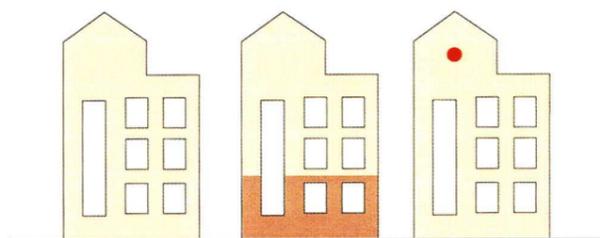
外観の大部分を占める色彩で、建築物のイメージを支配する基調となる色

【アソートカラー】

ベースカラーに配して変化を与え、特徴づける色で、ベースカラーに類似した色

【アクセントカラー】

全体の調子を強調し、全体を引き締めきわだたせる色で、建築物の一部に用いる



ベースカラー

ベースカラー＋
アソートカラー

ベースカラー＋
アクセントカラー

突出色を防ぐ色使いのポイント

色彩景観は建築物の色、屋外広告物の色など多くの色が混在しあって作り出されるため、景観のベースカラーは類似調和を基本として、まち全体の色彩を考えることが大切です。

【色調と色相】

明度と彩度を一つにまとめた色調（色の調子）は、色彩にまとまりをつくる働きがあり、類似関係の色調の揃った色彩でベースカラーが整えられると、まとまりのある景観がつけられます。反対に、低彩度でも色調・色相が大きく異なる色が混在すると、まとまりのない景観となります。また、低彩度でも色相によって突出色となりやすい色（黄緑、緑、青緑、青、青紫、紫、赤紫、赤）も、使用にあたって十分な検討が必要です。

【色と面積】

色の見え方はその面積の大小によって随分違い、大壁面になると、光の反射によって予想以上に明るく、鮮やかに見える場合があります。

建築物のベースカラーとなる色は、特に大きな色見本で十分検討し、現地で周辺とのバランスを考え全体を把握し、決定することが大切です。彩度の高い色は、大壁面で使用すると突出色となりがちなので、注意が必要です。

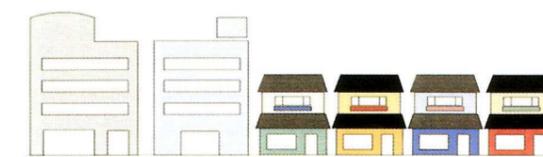
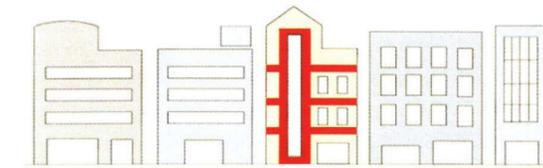
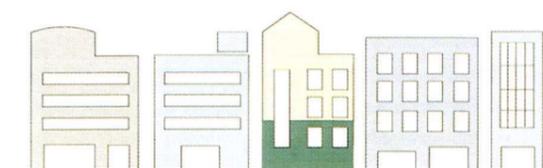
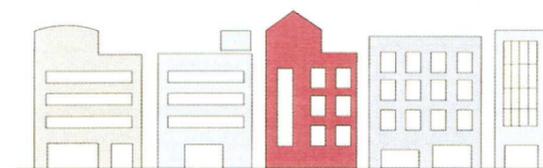
【アクセントカラー】

アクセントカラーは、小面積で使ってこそ効果があり、面積が大きすぎると目立ちすぎて、全体としてアンバランスになります。

地域や街区の特色・個性を表現するものとして、小面積のアクセントカラーを、ベースカラーとの調和の観点から、地域のコンセプトに応じて選定しましょう。

【色数】

個々の建築物に使用する色数を多くしたり、過度の色分けを行うと、まとまりのない雑然としたイメージになります。連続した店舗や宅地開発などで、個性演出や区別のために、必要以上に色分けをすると、周辺から突出した群をつくることになるため、特に注意が必要です。



※ 本文の作成にあたっては、「大阪市色彩景観計画ガイドブック」を参考にしました。

色彩の表示方法

色彩の基本的な表示方法に日本工業規格（JIS）による方法があります。この規格は、マンセル表色系に測色学的な検討と修正を加えた「修正マンセル表色系」に基づいたものです。

色の三属性

具体的に色彩の指定や記録をする場合、色彩を共通認識できる詳細な表示が必要となります。

色み（色相・HUE）、色の明るさ（明度・VALUE）、色の鮮やかさ（彩度・CHROMA）を色の三属性といい、これを用いて、ものの表面色を記号と数値で表しています。

【色相（HUE）】

赤、青、黄など色みのことをいい、赤（R）、黄（Y）、緑（G）、青（B）、紫（P）と記号を用いて10色相とし、数で細分します。

【明度（VALUE）】

色の明るさの度合いをいい、明度が最も高い色は白、最も低い色は黒です。明度が高い程数値が大きくなります。

【彩度（CHROMA）】

色の鮮やかさの度合いをいい、色を感覚的に段階分けしたものです。彩度が高い程数値が大きくなります。

マンセル記号

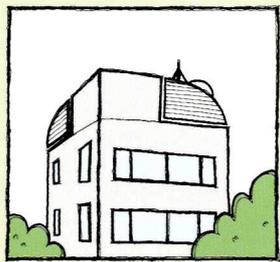
色相	明度	彩度
5アール	4	14
<u>5</u> R	<u>4</u>	<u>14</u>
赤	中程度	鮮やか

色相環



各々の色相で最も鮮やかな色を輪の形に並べたもの。

3- a 屋上付帯設備



建築物とのバランスと
調和に配慮する

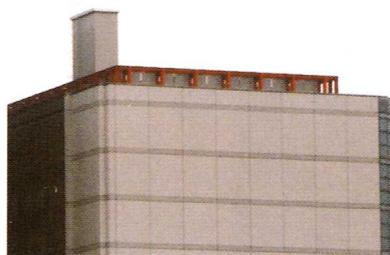
目立たないように配置・意匠を工夫する。

1. 建築物と一体的となる
デザインを施す



外壁と同じ仕様の立ち上げ壁で一体的にデザインし、視線をさえぎる。

2. アクセントとなる
デザインの囲いで隠す



建築物のアクセントとなる色彩の囲いで、屋上付帯設備を隠す。

3. 設置場所を工夫する



道路から見えない位置に設置し、目隠しで囲う。



外壁と同じ仕様の囲い壁で一体的にデザインする。



屋根の一部として、設備類の目隠しにデザインをし、アクセントとしている。



屋根形状を利用して、見えない位置に設置する。



建築物の屋根のデザインと合わせた塔屋に組みこみ、一体的にデザインする。

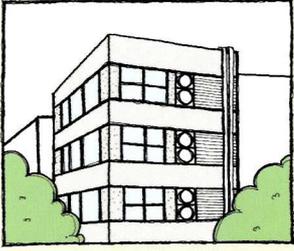


特徴ある形態で、モニュメント的に演出する。



外壁を立ち上げた壁で隠れる位置に設置する。

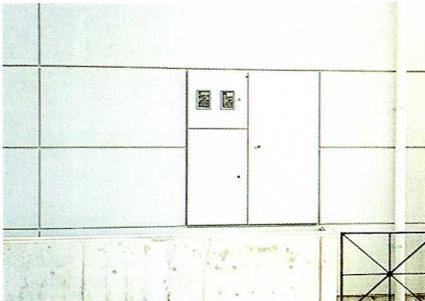
3- b 外壁付帯設備



建築物とのバランスと
調和に配慮する

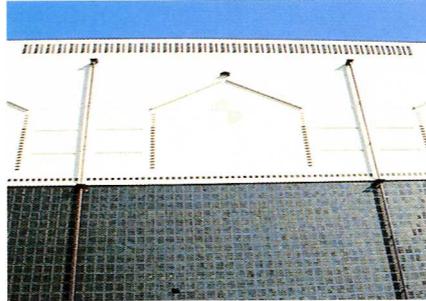
建築物との調和に配慮し、配
置・意匠を工夫する。

1. 建築物と一体的となる デザインを施す



外壁に設置する設備類を目立たないように外装材
で覆う。

2. アクセントとなる デザインを施す



たて樋にデザイン的な配慮をし、アクセントとす
る。

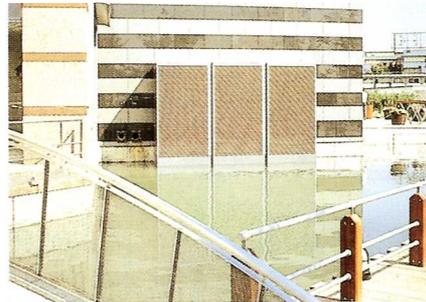
3. 設置場所を工夫する



道路から見えない裏側に設置し、目隠しで囲う。



外壁面と同面に同色調のルーバーを取り付け、一
体的に壁面をデザインする。



排気口をデザインし、アクセントとする。



裏側に設置し、位置を統一して整然とさせる。



たて樋を外壁と同色に仕上げ、目立たなくする。

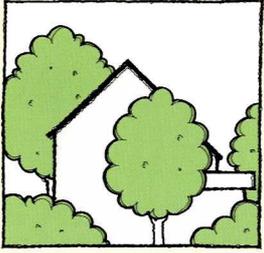


引き込み線を受ける部分をデザインし、アクセ
ントとする。



目隠しを設け、植栽をする。

4 緑化



緑豊かなうるおいある
まちなみづくり

周辺の緑と連続性を持たせ、
地域の特性に応じた緑の演出
を工夫する。

1. 周辺の緑に配慮する



隣の敷地との緑の連続性に配慮し、緑のネットワ
ークをつくる。

2. 印象的な植栽を 工夫する



紅葉する樹種で季節感を演出する。

3. 維持・管理に留意する



散水栓をあらかじめ設け、植栽が枯れないような
設備を整える。



既存の樹木を保存し、外構植栽の一部として活用
する。



香りを楽しめる樹種で通りを印象づける。



樹木の根元部分を立ち上げ、踏まれないように保
護する。



屋上部分を緑化し、うるおいのある表情を演出
する。



花や実を楽しめる樹種を用い、まちなみを特徴づ
ける。



樹木の成長にともなう枝張りが十分にとれる空間
を確保する。

緑のデザイン手法

緑の固まりを見せるもの

高木（高さ3m以上）

クス、シイ、シラカシ、ヤマモモ、マテバシイ

【花の美しいもの】

タイサンボク

中木（高さ1~2m）

サンゴジュ、モッコク、モチ類

【花の美しいもの】

ツバキ類、サザンカ類、キョウチクトウ

【芽吹き的美丽なもの】

カナメモチ類（紅）、オウゴンシノブヒバ（黄）

【香りのあるもの】

モクセイ類、オガタマノキ

低木（高さ1m以下）

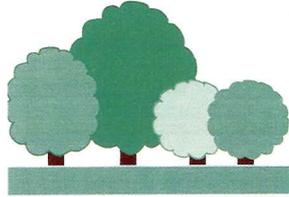
ツゲ、ヒサカキ、アセビ、アオキ

【花の美しいもの】

ツツジ類、サツキ、カンツバキ

【香りのあるもの】

ジンチョウゲ、クチナシ



空間を仕切るもの（生垣）

常緑

【花の美しいもの】

ツバキ類、サザンカ類、ビヨウヤナギ

【芽吹き的美丽なもの】

マサキ（黄緑）、オウゴンシノブヒバ（黄）、カナメモチ類（紅）

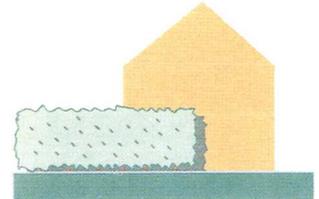
【香りのあるもの】

クチナシ、モクセイ類

落葉

【花の美しいもの】

ボケ、レンギョウ、カイドウ、クチナシ



垂れさがるもの

常緑

【花の美しいもの】

ピンカ・マジョール、ピンカ・ミノール

【葉だけのもの】

ヘデラ類

落葉

【花の美しいもの】

（草花）キンレンカ、ペチュニア、フクシア

【香りのあるもの】

ヤマフジ



壁になるもの（からませる）

常緑

【実のなるもの】

ムベ、ピナンカズラ

【香りのあるもの】

テイカカズラ、カラライナジャスミン、ビグノニア（カレーの香り）

半常緑

スイカズラ（香り）、ツルヌキニンドウ

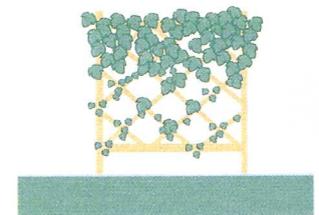
落葉

【花の美しいもの】

フジ類、クレマチス、ノウゼンカズラ、ツルバラ、トケイソウ

【実のなるもの】

ブドウ類、ホップ、キウイ、アケビ



庇になるもの

【常緑のもの】

スダジイ、シラカシ

【落葉のもの】

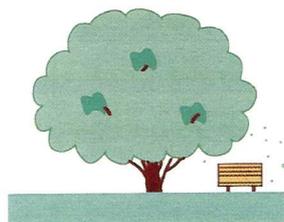
モミジ類、カキ類、ミズキ

【花も楽しめるもの】

ハナミズキ、サクラ類、ネム

【光の透過が美しいもの】

センダン、モミジ類、カキ



地面をおおうもの

日向を好む

【葉だけのもの】

シバ類、ササ類

【花も楽しめるもの】

シバザクラ、ヒメクチナシ、ムラサキカタバミ、マツバギク

半日陰を好む

【葉だけのもの】

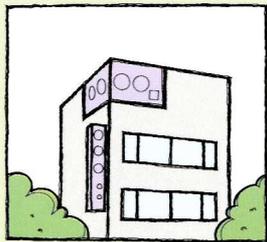
サルココッカ、リュウノヒゲ、ハイビヤクシン

【花も楽しめるもの】

リシマキア、ピンカ類、ジュウニヒトエ



5 広告物



まちなみとのバランスと調和に配慮する

建築物や周辺のまちなみとの調和に配慮し、最小限の表示内容とするとともに、配置・意匠を工夫する。

1. 建築物と一体的となるデザインを施す



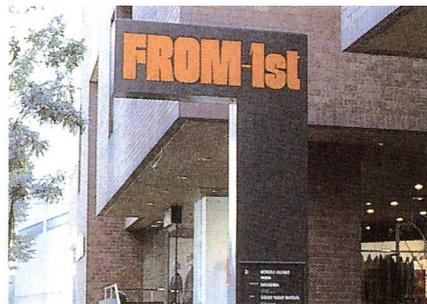
広告物を壁面デザインに合わせ、建築物と調和したものにす。

2. 設置場所や意匠を統一する



個々の標示を一カ所にまとめ、表現を統一する。

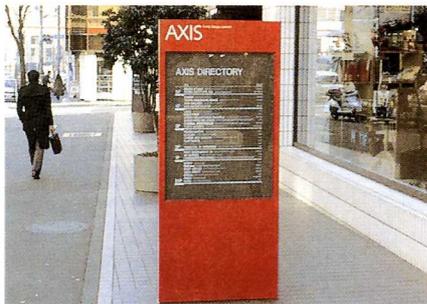
3. 大きさや色数等を抑えめにする



色数を抑えた看板ですっきりとまとめる。



建築物と幅を合わせ一体化し、色やレタリングで演出する。



すっきりとした形の集合看板を色彩の対比で印象的に演出する。



壁面広告をひかえめな大きさにし、ワンポイントとして印象を高める。



外壁に直接書きこみ、一体的にデザインする。



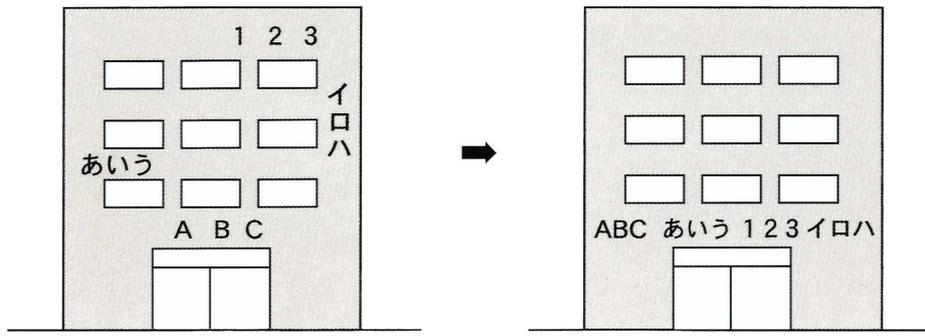
個々の看板の出幅、設置位置を統一し、通り景観に連続性を出す。



突出が少なくなる工夫をし、すっきりとまとめる。

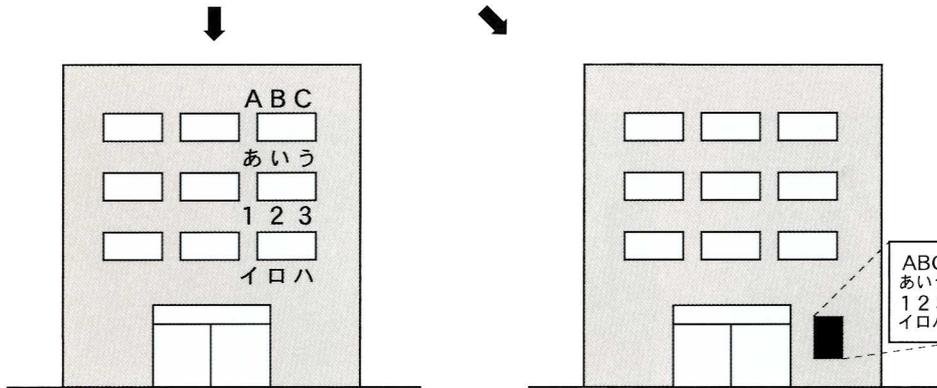
広告物の掲出方法

【標示の統一・集約】



まとまりのない乱雑な標示

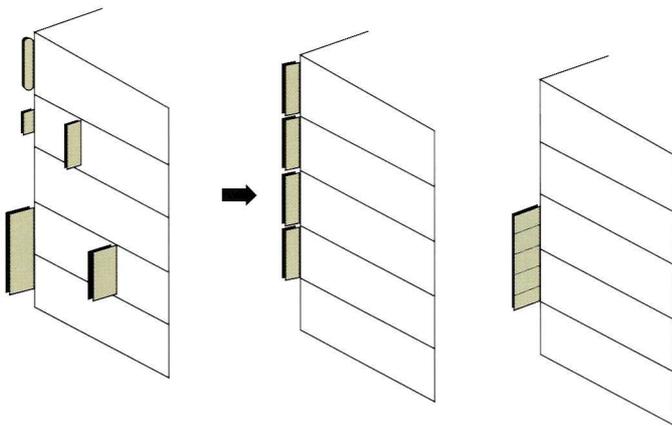
一ヶ所にまとめた標示



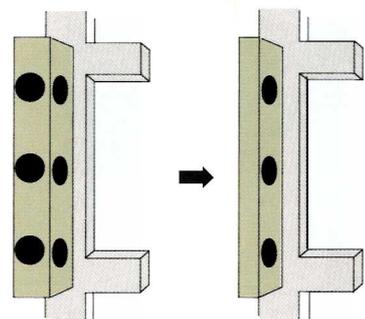
設置位置や大きさの統一

一つの標示への集約

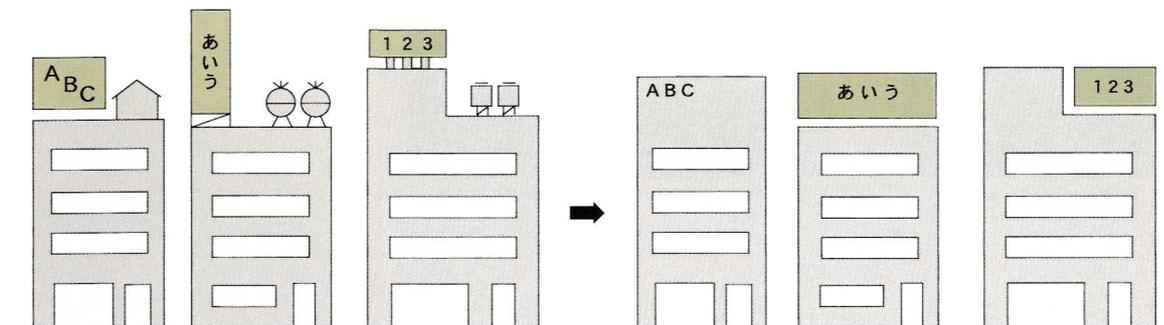
【設置位置の統一・集約】



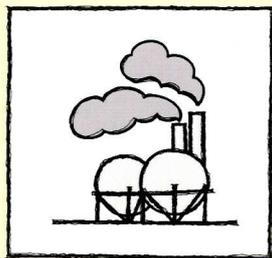
【表現の集約】



【スカイラインの整理】



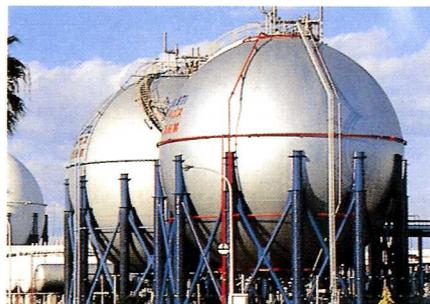
6 工作物



まちなみとのバランスと 調和に配慮する

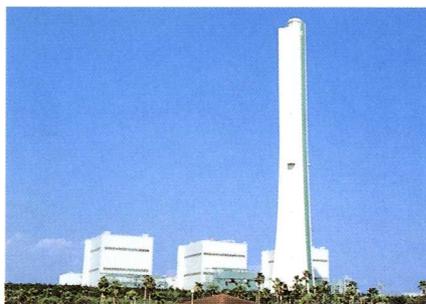
周辺のまちなみとの調和に配慮する。全体として、良質な意匠となるよう努める。

1. 意匠を工夫し、 圧迫感を軽減する



リズムある色彩を施し、圧迫感を軽減させる。

2. ランドマークとなる デザインを施す



すっきりとした形態で地域のランドマークとする。



工事中の仮囲いをペインティングし、通りを明るく演出する。



地域のシンボルとしてのデザインを施す。



カラーラインを入れ、圧迫感を軽減させる。



人を楽しませるデザインでランドマークとする。

